
人文学部の大学院生の楊さん 日本語弁論大会で最優秀賞に

茨城県土浦市のワークヒル土浦(勤労者総合福祉センター)で6月2日に開かれた世界平和女性連合主催の「女子留学生日本語弁論大会県大会」で、茨城大学人文学部の大学院で学ぶ中国・成都出身の楊芙蓉さんが最優秀賞に選ばれた。



日本語教師を目指し来日した楊さんは、日本の滞在中に日本人の親切さに触れて成長する自分をユーモアや手振り身振りを交えて語り、参加者の喝さいを浴びて、この荣誉に輝いた。ビデオ審査のハードルを越えれば、10月に東京で開かれる全国大会への出場となる。

大会には、ロシア、カザフスタン、台湾など5か国から6人の女子学生が参加。楊さんは、「私の留学生活ー日本・私が成長できた所」と題し、筑波大の研究生を経て大学院に合格した喜びや、京都の旅行で老夫婦に親切にされた感動などを発表した。

実行委員会事務局のニッ森さんは、「去年はエントリーしたものの楊さんは、母国での事情があって大会出場を辞退せざるを得なかった。二年越しの思いが弁論ににじんでいた」と語った。楊さんは、「日本に来て親切にしてくれた方々に感謝の気持ちを伝えたいと思い話をした。最優秀賞をとれたこともマスコミに取り上げられたことも嬉しかった」と喜びをかみしめていた。